NPO法人ダイバーシティサッカー協会

# 2025年度アニュアルレポート

（2025年4月～2026年3月）



# DIVERSITY SOCCER ASSOCIATION

diversity soccer

MESSAGE FROM THE REPRESENTATIVE DIRECTOR

# *MESSAGE FROM THE REPRESENTATIVE DIRECTOR*

## 代表メッセージ

2025年度も私たちダイバーシティサッカー協会を応援くださり、ありがとうございます。

2025年は、NPO法人化してはじめてのクラウドファンディングに挑戦しました。ホームレス・ワールドカップ2025オスロ大会への出場、また国内での活動基盤の強化を目指しました。おかげさまで627人の方から10,381,000円のご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

初の２年連続となったホームレス・ワールドカップ出場のインパクトは非常に大きいものでした。一生に一度の晴れ舞台を、多様な背景を持つ仲間たちと、時にぶつかり合いながら、対話を重ね、新しい自分を発見し、選手もスタッフも一回りも二回りも成長することができました。

帰国後も選手たちは、前向きにそれぞれのチャレンジに向き合って頑張っています。しかし、困難な状況から抜け出すことは、簡単ではありません。彼らの日々の格闘は、今後何年も続いていくものです。オスロ大会で培ったチームメイトとの関係や、私たちダイバーシティサッカー協会との繋がりは、そんな彼らの日常を支える力になっています。

彼らだけではなく、ホームレス・ワールドカップに向けた国内活動を通じて、私たちの支援を必要としている新しい層の人たちにも参加の機会を開くことができました。社会的養護出身の若者。依存症からの回復を目指す人たち。戦禍や迫害を逃れてきた難民申請者。サッカーは、そうした方々に生きる意欲を与え、支え合う関係を育む場になる。そのことを強く実感しています。

そこで2026年は、ホームレス・ワールドカップへの出場を一旦お休みし、国内でより多くの人をサッカーやスポーツを通じて継続的に支援する体制を築くための新規事業にチャレンジします。

一つは、ダイバーシティサッカーFC（仮称）です。過去2年にホームレス・ワールドカップを目指す中で集まった選手たちを中心に、クラブチームを発足させます。サッカーを通じてより高みを目指せる機会を作ることで、生きがいを持って日々を過ごすこと、また人としても成長していくことを支援します。

もう一つは、プレイフルスポーツ・コーディネーター講習です。スポーツの魅力は高みを目指すことだけではありません。お互いの自分らしさを認め合い、誰もが共に楽しむことのできる居場所を広げるために、すべての人を優しく包み込む「遊び心」のあるスポーツの場づくりの担い手を育成します。

また、安定して海外遠征と国内活動の両事業を維持できる団体を目指して、マンスリーサポーター（バディ・ソシオと名付けました）をはじめとする支援者の皆さまとの関係構築にも一層力を入れていきます。

私たちが取り組む「社会的排除」という課題には、終わりがありません。私たちは勝手に「私たち」でない人たちを作り出しては、「あちら側」にあるものと考えてしまいがちです。

「仲間はずれを生み出さない社会」、そして「すべての人を包み込む社会」へと、少しずつ近づいていきたい。そんな私たちの挑戦を、どうか引き続き支えていただけたら幸いです。




NPO法人ダイバーシティサッカー協会　代表理事

鈴木直文

## 目次 *Table of Contents*

代表メッセージ ..... p.1
クラウドファンディング活動報告 ..... p.3
Homeless World Cup
— 開催前 ..... p.5
— 遠征 ..... p.6
— 開催後 ..... p.7
TOPICS ..... p.8
ダイバーシティサッカー協会が取り組む社会課題 ..... p.9
ダイバーシティサッカー協会が起こす変化の道筋 ..... p.11
多様な活動 ..... p.13
*Interview*
ウクライナから日本へ。ホームレス・ワールドカップで得た誇りと未来（ミハイロさん） ..... p.15
「みんなで一緒にボールを蹴ろう」サッカーでつながる居場所（花渕さん） ..... p.17

支援を
未来の
チカラに

# クラウドファンディング 活動報告

***CROWDFUNDING REPORT*** *Empowering the Future through Support*

ホームレス・ワールドカップ2025オスロ大会に向けて、日本チームの渡航費や国内での活動費は
クラウドファンディングを通じて寄付を募りました。開始から2週間で第1目標を達成し、
READYFORの優れたプロジェクト100件にも選ばれました。

**目標**

目標金額

***3,500,000*** 円

2025年5月14日-6月30日

**結果**

ご支援金額

***10,381,000*** 円

ご支援者数

***627*** 名

**READYFORファンドレイジング**
**クラウドファンディングインパクトアワード2026**
**ノミネート候補100件に選出**




## ●2025年度活動計算書 （抜粋）

| 2025年4月～2026年3月 | （単位：円） |
|---|---|
| ◎経常収益 | 11,357,762 |
| 受取会費 | 139,000 |
| 受取寄付金 | 10,969,600 |
| 受取助成金 | 0 |
| 事業収益 | 0 |
| その他収益 | 249,162 |
| ◎経常費用 | 12,249,364 |
| 事業費 | 9,793,337（うち人件費0） |
| 管理費 | 2,456,027（うち人件費0） |
| ◎当期正味財産増減額 | △ 891,602 |
| ◎前期正味財産額 | 1,748,351 |
| ◎次期繰越正味財産額 | 856,749 |

※決算書類一式は、当協会HPに掲載しています

### クラウドファンディング 1,038万円の内訳

第3目標の1,000万円を達成したことにより、大会本部が定める選手8名、コーチ2名に加えて、現地での体調管理や通訳、広報やピアサポートのスタッフ5名を派遣することができました。また、アフリカ出身者の国内活動のサポートなど、居場所事業の強化にも活用しました。

- 旅費・保険代：565万円
- ユニフォーム・リターン品作成費用：115万円
- 国内旅費・交通費：78万円
（代表練習にかかる費用・居場所事業の強化）
- スタッフ拡充：41万円
- 支払い手数料など：239万円





## *Homeless World Cup* 概要

2003年に始まった、ホームレス状態の人が出場できるストリートサッカーの国際大会。
サッカーを通して生きがいや人との関わりを取り戻すとともに、ホームレスの人に対する
偏見をなくすことを目的としています。選手が出場できるのは人生で一度限りで、
日本チームは5回目の参加となりました。

## 第20回 オスロ大会

*20th Homeless World Cup — Oslo 2025*

Oslo

| 期間 | 開催地 | 出場国数・人数 | 男子 | 女子 |
|---|---|---|---|---|
| 2025年 8月23日-30日 | オスロ（ノルウェー） | 47の国と地域 約500名 | 出場 40チーム 優勝 エジプト | 出場 23チーム 優勝 ウガンダ |

## ●日本の対戦成績

男子は５チームごとに分けられたグループリーグ1stステージで総当たりで対戦。対戦結果に基づいて４チームごとに再編されたグループリーグ2ndステージを戦い、順位決定トーナメントに進みました。日本チームは、具体的なチーム目標は設定せず、「それぞれのチャレンジを応援すること」、そしてそのために「できるだけ全選手が全試合に出場すること」をテーマに臨みました。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 親善試合 | 日本 | vs | ガーナ | 6-8 |
| グループリーグ *1st Stage* | 日本 | vs | イタリア | 1-6 |
| | 日本 | vs | 北アイルランド | 1-10 |
| | 日本 | vs | ハンガリー | 4-5 |
| | 日本 | vs | オーストラリア | 7-1 |
| グループリーグ *2nd Stage* | 日本 | vs | ブルキナファソ | 8-4 |
| | 日本 | vs | コートジボワール | 4-4（PK勝利） |
| | 日本 | vs | 香港 | 1-4 |
| 順位決定 *Tier4* トーナメント | 日本 | vs | オーストリア | 2-6 |
| | 日本 | vs | ドイツ | 6-4 |
| | 日本 | vs | 香港 | 1-2 |
| **日本の最終結果** >>>>> | | | 男子出場40チーム中 | **30位** |

# Homeless World Cup

## 開催前 Pre-Tournament

5団体が参加し、4月から選考会や練習会を計5回開催しました。選考会では紛争や迫害などで祖国を逃れ、日本で生活する難民等にも広く参加を呼びかけました。その結果、日本チームとして初めて外国出身者を含む、多様な年代や背景を持つメンバーが選出されました。

- 3/1 (土) ダイバーシティサッカー・フェスティバル（オスロ大会の紹介） BumB
- 4/27 (日) 第1回練習会 BumB
- 6/1 (日) 第2回練習会&説明会 BumB

**出場選手&リザーブ決定▶パスポート取得**

- 6/29 (日) 第3回練習会&説明会 トライー橋学園
- 7/27 (日) 第4回練習会 トライー橋学園
- 8/9 (土) -10 (日) 合宿練習会 BumB &トライー橋学園







参加者数

延べ **215** 名

本大会への出場選手やリザーブだけでなく、ウクライナやアフリカ出身の若者、NPO法人育て上げネットの利用者、野武士東京のメンバーも参加し、練習相手として活躍しました。

### 日本代表 参加資格

以下の(1)～(3)をすべて満たすこと

(1) 16歳以上である
(2) ホームレス・ワールドカップに未出場である
(3) 以下の条件のいずれかを満たす
- a. 「**Homeless状態**」のいずれかを大会前1年以内に経験した
- b. ビッグイシュー誌の販売を主たる収入源としている
- c. 難民申請中または過去に難民申請し現在は在留資格がある
- d. 依存症のリハビリテーション中で、「**Homeless状態**」のいずれかを大会前2年以内に経験した

## 遠征 Tournament Tour

グループリーグ序盤は、なかなか自分たちらしいプレーが難しく苦戦。その後持ち直したものの、大会中盤からは怪我や体調不良などでの欠場もあり、全員が全試合に出場することはできませんでしたが、メンバー同士の対話を繰り返し、心を一つにしてプレーするチームへと成長することができました。






- 8/21 (木) 成田出発　バンコク経由
- 8/22 (金) オスロ着、パス等を受け取り前夜祭へ
- 8/23 (土) パレード&開会式　親善試合 vsガーナ
- 8/24 (日) **1stステージ** イタリア戦&北アイルランド戦
- 8/25 (月) 香港とフレンドリーマッチ **1stステージ** ハンガリー戦&オーストラリア戦
- 8/26 (火) **2ndステージ** ブルキナファソ戦
- 8/27 (水) **2ndステージ** コートジボワール戦 午後のアクティビティ
- 8/28 (木) **2ndステージ** 香港戦
- 8/29 (金) ウクライナ出身者とのフレンドリーマッチ **Tier4トーナメント** オーストリア戦&ドイツ戦
- 8/30 (土) **Tier4トーナメント** 香港戦 閉会式
- 8/31 (日) オスロ出発　バンコク経由で9/1に日本着

### 選手属性

（リザーブ選手含む）

| | |
|---|---|
| 社会的養護経験者 | 3人 |
| ウクライナ避難民 | 2人 |
| 短期の住居喪失 | 1人 |
| 長期の不安定居住 | 1人 |
| 長期の路上生活 | 1人 |
| 依存症の回復施設 | 1人 |

若者支援団体からの推薦で
児童養護施設出身の若者が
複数名出場したほか、大会への出場を目指して
長年の路上生活を脱し、
住まいを得た選手もいました。
また、依存症の回復施設からも
初めて推薦があり、幅広い属性となりました。

## 開催後 Post-Tournament

およそ10日間の遠征を終えたメンバーは、宮城、東京、大阪など、それぞれの暮らしに戻り、日常生活を再開しました。大会中の怪我のフォローなどに加え、大会に出場しなかったものの、活動を通じて参加が広がった外国出身者のサポートなどにも力を入れました。







### 報告会&フットサル交流会の開催

10月13日に、BumBで帰国報告会を開きました。スタッフによる活動報告に加え、選手と監督が一緒に登壇しクロストークを行いました。現地でのハプニングや多様な選手が参加したことによる苦労なども赤裸々に話されました。報告会後にはフットサル交流会も開き、連携団体のスタッフやクラウドファンディングの支援者など、合計50人が参加しました。

### 日本で暮らす外国人のサポート

紛争や政治的迫害を逃れてきたアフリカ出身の難民申請者や、在留資格はあるものの日本に伝手のない方々、唐突な雇用の打ち切りでオーバーステイになってしまったサッカー選手等の支援を行いました。代表鈴木自ら引越しを手伝ったり、コートの予約が困難な方にグラウンドの予約手配を支援したり、寄付でいただいたシューズを寄贈したりしました。





### ウクライナ避難民の住宅確保

オスロ大会に出場したメンバーの紹介で、2025年にウクライナから避難した人が当協会の活動に新たに参加しています。その中で、「現在は知人宅にいるが、自分の住まいを得るため、保証人になってほしい」という依頼があり、ホームレス支援団体につなぎました。その後、無事に住まいを確保し、今では仕事の傍ら、少年サッカークラブのコーチをしています。

Column

### リターン品の制作を通じた出番の創出

クラウドファンディングのリターン品として制作したタオルやリストバンドは、活動に参加する若者がデザインしました。タオルはファンションデザイナー志望のボランティアがデザインし、リストバンドは、アフリカ出身で長年活動に参加するメンバーに、色味やフォントなどのデザイン面でご協力いただきました。




ご支援いただいた皆さまへお送りしたほか、参加者に配布するなどして現地での応援でも活用しました。



# TOPICS

ホームレス・ワールドカップやクラウドファンディングでの発信をきっかけに、行政や大学、団体等からの講演や新たな担い手育成のための連携依頼が多くありました。

## 01 プレイフルスポーツ・コーディネーターの養成

**コーディネーター講習会の開催や紹介**

- 9/4：産業能率大学
- 11/30：リカバリーの学校
- 1/31：共生社会コンファレンス
- 3/7：ダイバーシティサッカー・フェスティバル前日イベント

## 02 大学での講演

**講演実績**

- 12/16：関西大学
  「NPO法人ダイバーシティサッカー協会の活動から学ぶ多文化共修の意義と実践」
- 2/11：桜美林大学
  「スポーツ×福祉 インクルージョンの現場を目撃せよ！」

## 03 研修や登壇

- 11/19：日本サッカー協会「アスパス！サロン」登壇　JFAハウス
- 3/12：東京都教育庁主催 人権学習指導者研修　東京都教職員研修センター

## 04 全国にまたがるパートナー団体

関東・関西・東北を中心に、愛知や香川など各地の支援団体や当事者団体におけるスポーツを通じた居場所づくりを応援してきました。また、国内の大会には、韓国やキルギスからの参加もあります。

**各地のリーグ&フェス参加団体　2023 - 2025年**



- 海外：ビッグイシューコリア / キルギス・ストリートサッカー連盟
- 大阪：野武士大阪 / YARIMASE大阪 / YDP / F.C. 扇町クレセントーレ / DXP / Break / 虹色ダイバーシティ / 高槻子ども食堂 / KFC（北芝フットボールクラブ） / コネクション ズ おおさか / Half Time / ビッグイシュー基金 / ホームドア
- 愛知：ボパイ / 名古屋ダルク
- 滋賀：滋賀ラクーンドッグス
- 京都：FC ウエノ
- 和歌山：一麦会
- 香川：hito.toco
- 奈良：エモーショナルリテラシーセンター
- 沖縄：daimon（ダイモン）
- 福島：FYO
- 埼玉：ディーキャリア春日部 / リタリコワークス春日部
- 宮城：まきばFC / まきばフリースクール / アスイク / TEDIC / リヴァトレ仙台 / With優 / ブレイズステーション
- 千葉：レーヴェン勝田台 / BLUE SKY /千葉『共に暮らす』フットボール協会 / FC RESIA
- 神奈川：よこはま北部ユースプラザ / FC PORT
- 東京：野武士東京 / アソビリズム / 育て上げネット / ゆどうふ / 東京グレイス・ロード / サンカクシャ / ブリッジフォースマイル / So What? / Team Nakano Africa / ダイヤモンドFC / リカバリーの学校@くにたち / 文化学習協同ネットワーク / 新人Hソケリッサ！ / コーヒーハウス（国立市公民館青年室） / FC LIDOBI / こころリカバリーフットボール協会 / ゆるスポ・くにたち

**オスロ大会への派遣協力**

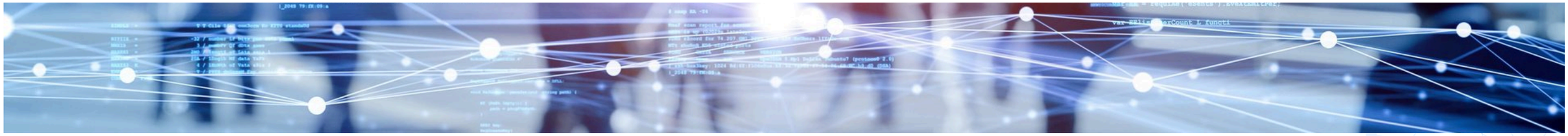
サンカクシャ / THE BIG ISSUE JAPAN FOUNDATION ビッグイシュー基金 / 名古屋ダルク DARC / Homedoor / まきばフリースクール

Fact & Data

# ダイバーシティサッカー協会が取り組む社会課題

SOCIAL ISSUES

## 多様な要因が連鎖する「社会的排除」のいま。複数の困難が絡み合う複合的な構造



### 社会的排除の現状

例えばホームレス状態の背景に障害に対する支援不足や孤立が潜んでいるように、日本の社会的排除は一つの理由だけでは語れません。掲載しているデータはあくまで表面化している一部に過ぎず、制度の狭間に落ちてしまうケースや、助けを求められずにいる「潜在的な当事者」は全国に数多く存在するとされています。だからこそ、単発の支援にとどまらない多角的な包摂のアプローチが必要です。

**日本に住む人の約4割が日常で孤独を感じている**



**孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」と回答した割合（37.7%）**

内閣府孤独・孤立対策推進室
『人々のつながりに関する基礎調査（令和７年）調査報告書』

**「頼れる人がいない」と答えた人の割合がワーストクラス**



**困ったときに頼れる友人や家族がいないと回答した割合がOECD加盟国中、ワースト8位**

OECD 『Social Connections and Loneliness in OECD Countries』(Figure 2.15)

### ホームレス

不安定居住者の実態

可視化されたデータは東京都等の調査にとどまり、全国の自治体には数値に表れない当事者が広く存在すると見られています。

全体概念図※1

**家はあるものの、不安定**
ex.居住権を認めない賃貸物件、会社名義の部屋など
東京都 **数万人以上**

**屋根はあるが、家がない**
ex.ネットカフェ、施設、病院、友人宅など
約**4,000**人※2（推計値）

**屋根がない**
ex.路上、公園、河川敷など
**507**人※3（全国では 2,481人）

※1 稲葉 剛『ハウジングプア：「住まいの貧困」と向き合う』
※2 東京都福祉保健局 『住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査報告書』(2018年)
※3 厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）結果について」（令和8年4月27日発表）

### 難民

| | |
|---|---|
| 難民認定申請者数 | **11,298**人 |
| 難民と認定した外国人 | **187**人 |

出典：出入国在留管理庁「令和７年における難民認定者数等について」（令和8年3月27日発表）

### 若年無業者

15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者　約**61**万人

出典：厚生労働省『令和７年版厚生労働白書　次世代の主役となる若者の皆さんへ－変化する社会における社会保障・労働施策の役割を知る－』

### 障害者

| | |
|---|---|
| 身体障害者 | 約**423**万人 |
| 知的障害者 | 約**126.8**万人 |
| 精神障害者 | 約**603**万人 |

出典：内閣府『令和７年版　障害者白書』

### 依存症

| | |
|---|---|
| アルコール依存症患者数 | **107,912**人 |
| 薬物依存症患者数 | **14,022**人 |
| ギャンブル等依存症患者数 | **3,829**人<br>ギャンブル等依存が疑われる者：成人の1.7% |

出典：厚生労働省『令和６年版厚生労働白書－こころの健康と向き合い、健やかに暮らすことのできる社会に－』／松下幸生, 古賀佳樹, 新田千枝, 浦山悠子, 柴山笑凜, 遠山朋海, 伊東寛哲, 木村充; 令和5年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2024年

### ひきこもり

ひきこもり状態にある人（15～64歳）　約**146**万人（推計値）

出典：内閣府『こども・若者の意識と生活に関する調査』(2022年度)

### 不登校

小・中学校における不登校児童生徒数　約**35**万人

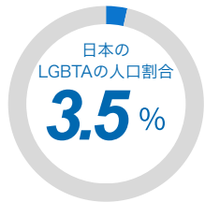
出典：文部科学省
『令和６年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果』

### 児童養護施設入所者

0歳～19歳
約**2万3,000**人

出典：こども家庭庁『児童養護施設入所児童等調査の概要』（令和5年2月1日現在）

### LGBTQIA+




出典：釜野ほか，2025，『家族と性と多様性にかんする全国アンケート報告書』 科研費「性的指向と性自認の人口学の構築－全国無作為抽出調査の実施」研究チーム．

Theory of Change

# ダイバーシティサッカー協会が　起こす変化の道筋

SOCIAL IMPACT

## 複雑な社会的排除を超えて ——「仲間はずれを生み出さない社会」へ

「社会的排除」という複雑な課題に対し、当協会は寄付や協賛、学術的知見を基盤としながら、サッカーという誰もが参加できる場を通じて、居場所と自己肯定感を育むきっかけをつくります。さらに、この取り組みを全国へ広げて地域社会におけるインクルーシブなモデルを構築し、多様な背景を持つ人がスポーツを通じて、自分らしく生きられる「仲間はずれを生み出さない社会」の実現を目指します。

### Input
私たちの原動力

**寄　付**

活動を支える
温かいご支援

**スポンサー**

パートナーとしての
共創・支援

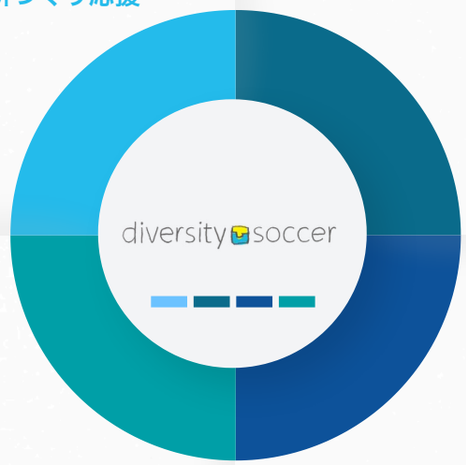
**学術的知見**

研究・知見の提供と
専門的アドバイス

### Activity
多様な活動

スポーツを通じた
居場所づくり応援

国内大会・交流イベント




ホームレス・ワールドカップ

調査・研究・広報

Activityの詳細は、p.13-14をご覧ください

### Outcome
生み出す変化

**当　事　者**

心理的安全性▸自己肯定感
▸生活安定・社会参画

**支　援　者**

社会的包摂の理解・
協働の推進

**地　域**

インクルーシブな
地域モデルの確立

### Impact
社会に与える影響

## 仲間はずれを
## 生み出さない社会

誰もが尊重され、つながり、
自分らしく生きられる社会へ。
サッカーが
未来を変える力になる。



Activity

## 多様な活動

# サッカーを通じて、多様な人々の可能性をひらく 4つの事業

スポーツで仲間はずれを生み出さない社会の実現に向けて、居場所づくりの応援や大会の開催、調査・研究に取り組んでいます。多様な社会的困難・背景を持つ人やその支援者が出会い、ともに夢中になることを通じて、誰もが自分らしくいられる世界を目指します。

### スポーツを通じた居場所づくり応援

ホームレス経験者などが参加する定例の練習会を東京・大阪で各月2回開くほか、他団体のスポーツを通じた居場所づくりのサポートや新たな担い手育成のための「プレイフルスポーツ・コーディネーター」講習会などに取り組んでいます。

練習会のべ参加者数
**2,390名**
（2020年4月～2026年3月）

### 国内大会・交流イベント

「ダイバーシティリーグ」を定期的に開催するほか、年に１度の祭典「ダイバーシティサッカー・フェスティバル」を2023年から毎年実施しています。身体を使ったアイスブレイクやルールを変える対話などを通じて、誰もが楽しみながら交流できる工夫をしています。

参加チーム数
**49チーム**

リーグ・フェスのべ参加者数
**2,182名**
（2022年7月～2026年3月）

### ホームレス・ワールドカップ

不安定な居住状態にある人が参加するサッカーの国際大会「ホームレス・ワールドカップ」の日本のパートナー団体を務めています。国内での選手選考や派遣、海外のパートナー団体との連携をしています。

出場回数
**5回**

### 調査・研究・広報

研究者や支援団体と連携し、スポーツを通じた社会的包摂の事例調査をしています。また、それぞれの取り組みを報告書にまとめたり、メディアに案内することで、広く社会への発信を行っています。







取材協力
（朝日放送テレビ『newsおかえり』）

雑誌への寄稿
（体育の科学第74巻）

大学や企業等での講演
（桜美林大学）



*Interview*

# ウクライナから日本へ。ホームレス・ワールドカップで得た誇りと未来

故郷・ウクライナの戦禍により来日したミハイロさん。
ダイバーシティサッカーでの人々との交流を通じた
心境の変化と、これからの未来を語りました。

*Profile*

ZEMLIACHENKO MYKHAILO（ミハイロ）

2022年、妻とともにウクライナから来日。オスロ大会ではゴールを連発して大活躍。普段はUber Eatsの配達の仕事をしながら、プラネタリウム解説員の妻とともに日本各地を巡るのが楽しみ。

## ウクライナから日本に来た経緯

**ミハイロ** 私はウクライナの北東部にあるハルキウ州クピャンスク市という場所で暮らしていましたが、戦争の前線に近い地域で。妻と長い間頑張って、ようやく7年前に買った家が爆撃でなくなりました。クピャンスクは、今はほとんど瓦礫しか残っていません。

**鈴木** どのような経緯で日本に来ることを決めましたか？

**ミハイロ** 戦争が始まったばかりの頃は、仕事でチェコにいました。チェコで妻と合流しましたが、「これからどうしよう」「仕事をしなきゃいけないけど、国内の状況も危ない」と。



そのとき妻の知り合いから、日本へ行けるプログラムがあることを聞きました。そのプログラムを申し込んだ際に「日本に知り合いはいますか？」「日本語はできますか？」と聞かれて、どの質問にも「いいえ」と答えたので「きっと無理だな」と思ったんです。それでも1週間後に連絡があり、すぐに日本行きを決断しました。

**鈴木** 日本に行けることを知ったときの気持ちは？

**ミハイロ** まさか行けると思っていなかったので、すごく驚きました。でも、まだ新型コロナウイルスの影響があったので、日本に着いてからの3日間は隔離生活だったんです。隔離が終わってからはアパートを手配してもらって、日本語を一生懸命勉強し始めました。仕事もいろいろやってみて今は落ち着いていますが、当時は日本の物価の上昇もあり「これからどうなるの？」と不安でした。

**ウクライナ避難民の受入現状と課題**

ロシア侵攻以降、日本のウクライナ避難民受け入れは累計2,900人※に上る。難民認定率は極めて低いものの、2023年12月に、「補完的保護対象者認定制度」が創設された。滞在の長期化に伴って、就労や日本語習得などの自立支援が課題となっている。

※出入国在留管理庁「ウクライナ避難民の受入れ・支援等の状況について」（2022年3月2日～2026年8月31日時点・速報値）

## ダイバーシティサッカー協会との出会い・経験

**鈴木** 私の友人を通じて日本にいるウクライナ人のグループに呼びかけてもらったところ、新木場の練習場に4人が集まりました。その4人のなかで、一番元気でコミュニケーションも積極的だったのがミハイロさんでした。練習に参加してみて、いかがでしたか？

**ミハイロ** さまざまな背景を持った人たちがサッカーという共通の目的で集まって、一つのチームとして団結する過程がおもしろかったですし、良い経験になりました。

**鈴木** 大変だったことはありますか？

**ミハイロ** 手や足が不自由な方もいたので、ケガをさせてしまうリスクもありますし、常に相手を尊重しながら接していましたが、なかには状況を考えずに、本気で激しくプレーしてしまう参加者もいました。「もうちょっと相手のことを考えた方がいいんじゃない？」と感じて、そこには難しさも覚えましたね。



Photo：John Anderson

**鈴木** ミハイロさんはすごく周りに気を配っていますよね。明るくて、みんなとコミュニケーションをとって、プレーも一生懸命。すごくポジティブな印象がありました。ホームレス・ワールドカップの選手としてミハイロさんを選出したのもそれが理由です。大会中も安定感がありましたし、頼りになりました。色んな人と仲良くできるから、チームにとっては心強い存在。ムードメーカーですよね。

## ホームレス・ワールドカップへの挑戦によって得られたこと・これからの未来

**鈴木** ホームレス・ワールドカップに出場したことで、何か変化はありましたか？

**ミハイロ** いろいろな国の人たちと出会い、たくさん深い話ができました。それぞれ違う文化・言語・考え方で生き方もさまざまですが、サッカーという一つのスポーツでつながることができて、とても良い思い出になりました。他の国の選手たちとは、大会後の今もSNSを通じてお互いの近況を共有しています。

**鈴木** 大会中はご家族も応援してくれましたか？

**ミハイロ** 海外に避難している親戚も、YouTubeでのライブ配信を観て応援してくれました。自分でもその映像をダウンロードして、大切な記念として残しています。大会ではみんな、他の国の選手とTシャツやユニフォームを交換していましたが、私は「このユニフォームは大切な記念。いつかウクライナに戻ったら、これは私の誇りになるから交換できません」と断って、そのまま持って帰ってきたんです。

**鈴木** 今後、やってみたいことはありますか？

**ミハイロ** 戦争が終わったらウクライナに帰って、家族に会いに行きたいです。そして、スポーツインストラクターに挑戦してみたいですね。今はまだ専門的な知識を持っていませんが、スポーツは私の人生に常に存在しているものですし、子どもが好きで教えることも好きなので、いつかやってみたいなと思っています。




Photo：Anita Milas




*Interview*

# 「みんなで一緒にボールを蹴ろう」サッカーでつながる居場所

雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者を経てダイバーシティサッカーと出会った花渕さん。長年活動を続ける理由は、サッカーを通じた人との交流にありました。

*Profile*

**花渕 信**（はなぶち まこと）

普段は街のパン屋さんから売れ残りそうなパンを預かって、夜に代理販売する「夜のパン屋さん」でドライバーを担いながら、ダイバーシティサッカー協会では選手兼スタッフとしてマルチに活動。オスロ大会でもスタッフとしてチームを支えた。

## ダイバーシティサッカー協会との出会い・経験

鈴木　ビッグイシューの販売をする前は、どんな仕事をしていたんですか？

花渕　自衛官として働いたり、ダンプの運転手をしたり。でもリーマン・ショックの頃に、仕事がポンとなくなってしまって。その後、路上でビッグイシューの販売をしていた方に話を聞いて、それから5年くらい販売者をやりました。途中で脳梗塞になって入院して、退院してからまた再開して。渋谷駅で1日に50冊くらい売っていましたよ。青山学院大学の学生たちが、ゼミの資料として使うために毎月2回買いに来ていたんです。

**リーマン・ショックの影響と残る課題**

リーマン・ショックによる「派遣切り」で、住宅と職を同時に失う「派遣村」問題が社会現象化。失業者の急増と安全網の脆弱性が顕在化したが、現在も非正規雇用の固定化や単身困窮者の増加など問題は継続。

鈴木　ダイバーシティサッカーはもともとビッグイシュー基金の事業だったので、活動に参加するようになったのもビッグイシューがきっかけですよね。

花渕　そうですね。最初は荷物運びや飲み物の配布、買い出しから始まって。それから「花渕さんもサッカーやってみたら？」と言われて、プレーもするようになりました。

鈴木　ダイバーシティサッカー協会が法人化してから、ビッグイシュー基金のスタッフに頼るだけでなく、自分たちで運営できるようにしていこうとなったときも、花渕さんは中心となって動いてくれましたよね。ダイバーシティリーグというイベントをやっていたとき、最初はみんなで運営していたんですけど、途中で余裕がなくなって、全部一人で抱え込んでいた時期がありました。そのときに、花渕さんが「みんなでやろうよ」と手伝ってくれて。「みんなで運営するのがいい」ということを花渕さんから教わりました。





## ホームレス・ワールドカップの経験

鈴木　花渕さんは長年、チームで一番運営を手伝ってくれますし、ホームレス・ワールドカップには選手として出場できたらと思っていたんですけど、出場資格がなくて。でもぜひ行ってほしかったので、チームスタッフとして一緒に来てくれませんかとお願いしました。ホームレス・ワールドカップでの経験はいかがでしたか？

花渕　若い子たちとは40歳くらい離れているので、最初はコミュニケーションをとるのは難しいかなと思っていました。東京での練習も、全員揃ってできたのが一回くらいでしたし。でも、一日経つにつれて、どんどんみんなと話すようになって。一番印象に残っているのは、最終日にホテルの会議室で一人一言ずつ話したときのこと。なぜか締めに話すことになって「ここはかっこよく決めないと」と（笑）。「みんな、日本に帰っても一緒にボール蹴ろうぜ！」とだけ言いました。

鈴木　性格もそれぞれの若者や、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちがいるなかで、花渕さんはムードメーカーというか、雰囲気をほんわかとさせてくれます。現地でもみんなに気を配っていましたよね。

花渕　3日目くらいに味噌汁とかベビースターラーメンとか、日本から持ってきたものを朝食のときに持っていったんですよ。3日目あたりになると日本食が恋しくなるだろうなと思って。

鈴木　そういう細かいケアをしてくれるのがありがたいです。

**若者の孤立**

少子化で若年人口が減る一方、若年無業者の数は高止まりし、改善が進んでいない。背景には、就労機会の不足だけではなく、不登校やひきこもりをはじめとする「社会的孤立」が深く関連しているといわれ、課題の長期化に対応する支援のあり方が問われている。

## 自分にとってのダイバーシティサッカー協会の存在



鈴木　ダイバーシティサッカーの活動に通い続ける理由は？

花渕　サッカーやフットサルだけでなく、みんなで一緒になって、チームに関係なく、隔たりもなく楽しむのが好きなんですよ。サッカーも団体ごとの戦いじゃなくて、全部ごちゃまぜにしたチームを作ってやるのもいいんじゃないかなと思います。そういう人との交流がやっぱり一番だと思うんですよね。

鈴木　サッカーのルールを変えるとか、ちょっと工夫してみんなが楽しめるようにしましょうというときに、花渕さんはすごくいい提案をしてくれるんですよね。「ちょっと人数を変えたら？」とか「ボールのパスが回らないから、パスをする前の制限を『何秒まで』と秒数で決めるより『何歩まで』と歩数にした方がいいんじゃないか」とか。ダイバーシティサッカー協会の活動には、今後も参加したいという気持ちはありますか？

花渕　そうですね。これからも継続して、少しでも体を動かしていきたいと思っています。ダイバーシティサッカー協会の活動をインターネットで見て、「あ、こういう活動をやっているんだ」とそこから応募して来てくれる方もいますし、たまたま公園に来たことで知って参加してくれる方もいます。今は、公園に来た親子とか子どもたちを巻き込んで、一緒に練習しているじゃないですか。そういう人たちから、この活動がちょっとずつでも広まっていけばいいなと思います。

# NPO法人ダイバーシティサッカー協会

## 2025年度アニュアルレポート
DIVERSITY SOCCER ANNUAL REPORT 2025

デザイン：中野 有希
ライター：高橋 優奈
企画・編集：安藤 有希
編集協力：麻畑 実、高橋 優奈

2026年10月20日発行
発行：NPO法人ダイバーシティサッカー協会

## 役員 BOARD MEMBERS

**代表理事**
鈴木 直文（一橋大学 教授）

**監事**
関口 宏聡
（NPO法人セイエン 代表理事）

**理事**
岡部 茜（佛教大学 准教授）
川上 翔（事務局長）
竹内 佑一（PSIカウンセリングルーム 代表）
長谷川 知広（ダイバーシティサッカー協会 創設者）
蛭間 芳樹（銀行員 / NPO法人ビッグイシュー日本 理事）

## ご支援いただいた企業・団体の皆さま SPECIAL THANKS

ダイモン
LIFULL
VASALLO
TRY FOOTBALL FIELD
サンカクシャ
THE BIG ISSUE JAPAN FOUNDATION ビッグイシュー基金
NPO 法人まきばフリースクール
名古屋ダルク DARC
Homedoor

## 協会情報 INFORMATION

**Official Website**
https://diversity-soccer.org

**Contact & Access**
住所　：〒542-0081
　　大阪市中央区南船場3丁目11-27
メール：info@diversity-soccer.org

**Official Social Media**
Facebook｜@Diversity.soccer
X（旧Twitter）｜@DSA_Japan
Instagram｜@dsa_japan
YouTube｜ダイバーシティサッカー協会

**活動を支えるご寄付はこちらから** https://diversity-soccer.org/donation